

1	審議会名	第1回上田市スポーツ推進審議会
2	日 時	平成25年11月5日 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	教育委員会やぐら下庁舎2階会議室
4	出 席 者	犬飼会長、小林副会長、石川委員、野口委員、松本委員、依田委員、渡辺委員
5	市側出席者	教育次長、スポーツ推進課長、真田地域教育事務所長、武石地域教育事務所長 スポーツ施設係長、スポーツ推進係長、スポーツ推進係
6	公開・非公開等の別	公開・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	25年12月9日

協 議 事 項 等

- 1 開会（スポーツ推進課長）
- 2 人事通知書交付
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 平成25年度上田市スポーツ推進事業の進捗状況

(会 長) 平成25年度上田スポーツ推進事業の進捗状況について、事務局からの説明をお願いします。

(事務局) 平成25年度進捗状況についての説明

(会 長) 大きく分けて、現在事業を推進しているものと、施設の補修計画・整備計画と2つについてお話していただいた。

皆さんからご意見をいただきたい。

(委 員) 資料中「指導者の資質、育成」の部分について、上田市としてだけではなく、市全体の中で、指導者の育成、若しくは指導者を対象とした講習会等の開催の事例などが実態としてあるのか状況を教えていただきたい。

(会 長) 各協会等により様々な教育方針が出されていると思うがどのような状況。

(事務局) 世の中ではスポーツ指導の中で体罰の問題等が報道されている。さまざまな競技がある中で、子供の指導に携わっている方の指導者としてのレベルアップの観点から、上田市でももう少し指導者の育成をやっていかねばならないのではと様々なところからご意見をいただいている。

現在のところスポーツ推進課で具体的に指導者育成のための施策を講じるという部分までは至っていないが、今後、体育協会等と連携をしながら指導者育成についても具体的な施策を考えていきたい。

(委 員) 事務局から話がありましたが、体育協会としましても体罰などの文科省からの通達等はいいただいている。10月に市、教育委員会、体育協会で開催した懇談会の中で、市では「上田市スポーツ振興計画」、体育協会では「うえだスポーツ振興ビジョン」を作成した経緯もあり、指導者育成についても自主的にやっていかねばいけないという話となった。月に1回、定例会を開催し具体的な方向に進めるということで、まだ準備段階というのが現状。

(会 長) 具体的に進める方向でお願いしたい。

(委 員) 指導者の範囲があまりにも広すぎるので難しい。県の教育委員会では、先生を対象にした施策等は講じているのか。

(委 員) 県のスポーツ課では、今年松本市の浅間温泉を会場にして、中学校、高校の指導者を対象にして研修会を開催した。

指導者（コーチ）としての資質が身についていなければ、実際に子供たちやスポーツ指導をするうえで主体的に指導することが出来なくなってしまう。

体罰根絶ももちろんそうだが、指導者の資質向上、あるべき姿等について、2時間の講演をしていただいた。

また、県では部活動のあり方の検討委員会を実施している。新聞等でも朝の部活動の廃止が報道されているが、それも含めてあり方委員会で検討している。これからまとめに入っていく段階である。その中でも、部活動の指導者をどうして行くのか、外部の有資格の指導者、市町村の教育委員会とどのように連携していくのか、という点が検討されている。

今後、12月に向けて交渉していくが、それを踏まえ、各学校、各競技団体、各市町村教育委員会等に説明する予定となっている。

個人的に思うのは、文部科学省も体罰根絶ということで提言をしているが、実際は具体的な策が見えにくいというところがある。

何のために、何をやるのか、何が必要かという点を考えて研修会や講習会を開くことが重要だと思う。上田市から具体的なことがはっきり出てくるとそれが先駆けとなることと思う。競技団体だけでは難しいと思う。

(会長) これまで、県の研修を講師として引き受けてきた中で、最近は最後の50分を部活動の指導に関する研修に当てるようになった。そのような事例からも何かをしようとしているのはわかるが、一方通行の講習会形式になりがちになってしまう傾向がある。体罰に対する学生の感じ方は様々である。子どもと大人が本音で話し合える場を設ける必要なのではないか。共通の認識をもちながら、コーチングをし、子供たちの主体性を尊重し、スポーツをする人が自分で練習内容や競技の中で個性を十分活かしていけるような、スポーツを楽しめる方向性を見出していける場を設けることを期待したい。

自己満足の指導者講習会とならない講習の場を是非ご検討いただきたい。

(会長) 「うえだスポーツナビ」について、今年は参加人数が昨年に比べて44名減少したとのことだが、必ずしも人数を伸ばすことが全てではないと考えている。継続性が重要と考えるが、広報活動はどのように行なったのか説明願いたい。

(事務局) 広報うえだへの周知記事掲載、各学校へのイベント内容の発信、総合型地域スポーツクラブを通じた情報の発信という三本立てにて周知活動を実施した。

(会長) スタッフの運営体制について教えていただきたい。

(事務局) スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、体育協会、行政関係課所により事業を実施した。

(会長) 参加者は、日頃スポーツに親しみのある人と、あまりスポーツに関わっていない人たち等はどのような配分であったか。

(事務局) 具体的に総合型地域スポーツクラブに加入しているのかという点までは特定できないが、クラブに加入している子どもが、関係する友達や親等と参加するケースが多かったように感じた。

(会長) 来年に向けて周知徹底していくなど、多くの方に参加していただくための考えはあるか。

(事務局) 好評でもあることから来年度以降も継続して実施していきたい。現在のところ具体的な方策は思いつかないが、もう少し広く周知できる方策を考えていきたい。

(会長) 学校の行事や長期休暇を考慮した日程検討も必要ではないか。

(事務局) 年間を通じて多くのイベントがある中で、会場確保も必要であることから、総合的により良い日程を検討していきたい。

(委員) 市民がどの程度知っているかという点では少し疑問。誰をターゲットとしているかが曖昧であることが少し残念。

(事務局) 一番の目的はスポーツ実施率の向上である。普段、スポーツも馴染みのない方へのアプローチとして考えている。競技スポーツには限っていない。

身近に気軽に出来るスポーツを紹介することでスポーツの世界への入口を提示することを目的としている。その先には、各競技団体などを紹介できればと考えている。

(会 長) リクリエーションスポーツというものは非常に幅広い。レクリエーションスポーツというのは、スポーツに縁遠い人も易しい活動をしながらかスポーツと繋いでいく架け橋のようなもの。この視点から考えると、夜に野球場に行っておかスポーツをやるというのは漠然としているため、これまでスポーツに親しんできてない人は敬遠してしまうことが一考される。イベント的な企画をしながら街中では日常的に出来るスポーツの場を設定していくなどで市民とスポーツを繋いでいくことで、この活動も市民に定着していくのではないか。見えないものには怖くて参加できないのではないか。

(事務局) 小学校等へ周知する際には、競技種目や方法を提示しイベント参加を呼びかけている。会長からご指摘いただいた点について、今後検討していきたい。

(会 長) 紙媒体による広告というのは意外と横に流してしまいがちである。体験するかしないかでは全然違う。何か考えがあれば取り入れていただきたい。

(委 員) B Jリーグの試合を開催するに際し、自然運動公園体育館の施設をどの程度の規模で改修等したのか。

東京オリンピック誘致の熱にあやかり、いろいろなスポーツに触れるシーンを子どもたちへ多く提供することは、オリンピック出場の夢を持たせることにもつながり大事なことだと考える。

今後、Vリーグや国際大会の招致を積極的に推進していく計画等はあるのか。

(事務局) B Jリーグの開催については、昨年度よりブレイブウォリアーズより上田市へ打診があった。当時、上田の体育館で開催できない一番大きな理由はバスケットゴール仕様が整っていなかったことであった。

その他、駐車場や選手の控え室、運営本部の会議室等の諸々の課題がある中で、ゴールと、シャワールームだけは何とか改善してほしいとの要望であった。

B Jリーグは、基本的に現状の体育館施設をそのまま使用するというコンセプトであったため、開催するために改善しなければならない敷居が低かった。従って、簡単な改修等で対応できたため、B Jリーグ開催の運びとなった。

Vリーグを開催する場合には、施設として要求されるレベルがもっと高くなると思う。自然運動公園の体育館が市内では一番新しく大きい施設であるが、この施設を全国規模や国際大会等の公式戦の開催を可能にするために改修するという予定は現状ではない。

この点については、もっと大きな目標として新たな体育館の建設をするという計画の段階でどのようなレベルの施設にしていくのか課題になると思う。

現状では、現存する施設に多少の修繕等で開催可能となるようであれば前向きに推進していきたいと考えている。

(委 員) Vリーグを開催するにあたり施設としての基準はどの程度なのか。

(委 員) 具体的には分からないがVリーグでもさほど敷居は高くはない。全日本レベルの試合だとさすがに基準は高くなる。B Jリーグを開催したことは大きな意義があると感じている。

上田自然運動公園の雨漏りの修理は考えていないのか。

(事務局) 雨漏りは前回も指摘を受けた経緯もあり昨年来、改修を実施している。雨の降り方によりで多少まだ改善されていない面も見受けられるので、引き続き継続して改修する予定である。

古くなった施設の雨漏りは場所や原因を特定するのが難しく時間を要しているが、決して放っておくというスタンスではない。

(委 員) 特に冬場はスポーツをしなくなるので、そういうときに自然運動公園体育館にトレーニング機器など導入していただいたり、体育館内を暖かくしていただければありがたい。

(会 長) 施設を立派にすることも重要だが、現存の施設規模で誘致できる大会を多く開催し、スポーツに力を入れていることを市民にPRしながら施設を作るということも一つの考え方かと思う。現時点の施設での最大の努力の範囲で誘致可能な試合や大会を多く開催していくのはいかがか。また、大会だけでなく一般市民が通いながらスポーツに親しむ企画を推進することで、より多くの体育施設を望むような市民運動につながっていけばいいと思う。施設の管理体制についても、しっかりと対応の出来る人員の配置を行なってもらいたい。

(委 員) 資料にも記載してある体育施設整備構想検討会議は現状では市の内部会議であるようだが、早急に立ち上げていただきながら、今のような要望や意見を集約していただきたい。上田市の施設の面については、高体連等から現実的には県大会も開けないという話もよく聞く。

(委 員) グラウンドについてもラグビーやサッカーなどの試合を、ある程度の規模で観客を集めて出来る施設が上田市にはない。何万人規模とまでは言わないが、スポーツを継続的に実施してもらうにはトップの選手の試合等を見ることで、モチベーションも上がってくる。すぐには無理なことは理解しているが発信し続けることが大事だと思う。

(委 員) 約25年前に着任したときから上田市高校サッカーフェスティバルという大会に携わっている。当時県外から47チームが参加したため、上田市街地の旅館だけでは収まらない状況で別所温泉や鹿教湯温泉等にもお願いしていた。旅館組合などからの要望もあり今では30回まで数を積み重ねている。ところが、近年は県外チームは8~9チームの参加となっている。

今は菅平もそうであるが天然芝、人工芝のグラウンドが全国各地にあるが、上田市内でやるとなると土のグラウンドとなってしまう。県外は全て芝のグラウンドを用意していることもあり、なかなかチームが集まらなくなってきた。

サッカーの関係では、A C長野パルセイロや松本山雅F Cなどの一流の試合を地元の子供たちの目の前で間近に見せることができ、そういった選手が身近に感じることが出来る場が上田市内でも必要ではないか。そういう子供たちが出てくると保護者たちも巻き込まれ、よりスポーツの発展性や循環性が生まれると思う。

(会 長) レクリエーショナル型の考え方で、見るスポーツを盛んにする立場から考えた場合に、その競技に精通しているのみがその競技(試合等)を見に行くのではなく、先ほどの街角レクスポプロジェクトのように、一般の市民を広く募ってツアーを組むことが有益と考える。このツアーは、その競技に精通したスポーツ解説者がついて、スポーツを観戦するツアー。例えば、菅平でラグビー見るときにどのような競技か分からないというよりも、選手の経歴やプロフィール等を交え近くで解説してくれる人がいればスポーツの見方もより面白くなる。

このようなツアーを一般の人を対象に、例えば総合型地域スポーツクラブが企画するなど、様々な企画を組んでみるのも面白いと思う。テレビで見るのとは違う楽しさを感じ取ってもらえる。従来のスポーツ感覚でなく、幅広い様々な面白さを伝えることができる。

(委 員) 施設には財政事情が関連するので、長いスパンで考えていくことが大事なことだと思う。施設以外の面で、上田市ではスポーツイベントについて頑張っていると感じる。実際に上田古戦場ハーフマラソン、爆水ランを見させていただいた。3千人規模の大会ということで予算規模も大きいと聞いている。スポーツ推進委員はじめボランティアスタッフの活動貢献にも目を引く部分があった。

川の中を走るということも普段経験することのできない貴重な機会の提供だと思う。そのような大会を継続して実施していることに感心する。

東信地区の他市町村よりも多くの費用をイベントに充てているのではないか。プロなどの大きい試合を行なうことも大事だが、青木村では松本山雅F Cの選手を招いて体育

館でサッカー教室やゲームを行なった(本来はグラウンドの予定であったが雨天により変更)ように、立派で大きな施設がなくても本物のスポーツと触れ合える方法はある。大きな費用も要さなかった。

また、東京オリンピックの開催が決定したがパラリンピックも招致となっていることから、障害者のスポーツを考えていただけたらいいと思う。施設についてもバリアフリーについて考えていかなければいけない。障害者の方が心置きなくスポーツが楽しめるように考えていただきたい。

(会 長) 先ほど 3on3 の話が出たが、車椅子バスケの 3on3 をやると非常にエキサイティングで面白い動き、すばらしい動きを見せてくれる。是非、枠に捉われないスポーツ大会という点で、障害を持った人たちに対するスポーツ環境の整備もしていただきたい。全てバリアフリーにしないと障害者対応は難しいわけではなく、不足面を補えるソフト面を育てていければなくなる問題もある。その点も指導者講習等で取り組んでいくことが大事だと考える。

(委 員) 大学に障害を持った学生で、聴覚障害のサッカーの選手として日本代表に選ばれてアジア大会に出場した選手がいるが、そのことがあまり認知されていないということを本人が言った。その以前には電動車椅子のサッカーで世界大会にも出た経験もある。車椅子バスケの話では、体育施設がなかなか貸してもらえない現状もある。車椅子では体育館の床を傷つける懸念がある。ちょっとした練習も出来ない現状がある。大学では1年の時に体育は必修になっているが、体育館が障害者もスポーツに取り組めるような環境にない。障害者のスポーツをするための環境整備も必要になると思う。

(会 長) 障害者のコーディネーターの方が、パラリンピックに出る障害者はただの障害者ではなく障害者のスポーツマンであると話していた。

持っている能力の何かを欠かすとコミュニケーションゲームになる。まさに心の教育になっていく。健常者と一緒にスポーツをやることの意味や価値はとっても大きく教育的効果もあると思う。

(委 員) 現在のところ障害者の関係は県や上田市の組織では福祉の担当に位置づけられている。そういった意味で具体的な方向性などは出来ていないように感じる。健康推進や福祉等との連携も必要となってくる。

(委 員) 例えば、学校では水泳は夏の一部しか実施しないが、市としてアクアプラザのような施設を活用し年間を通じて実施できるようなことは検討できないか。

(事務局) 市内に35の小中学校がありますので、その全部を対象にしてアクアプラザで実施するのは現実的ではない。学校事業とは別に、アクアプラザ側の企画として例えば小学生を対象にした年間の通じた教室を実施することなどの方法については研究の余地がある。アクアプラザは年間通じて利用者の数が多いので難しいことが予想される。

(会 長) 民間のスポーツ教室等のスイミングとは違う形で、市として子供たちが水に親しむ教室等の開催を検討していただきたい。